

植物



アマミスミレ※

溪流沿いの湿潤な環境に生息し、春に可憐な花を咲かせる。日本でもっとも小さなスミレとして知られている。

奄徳沖西



アマミアワゴケ※

溪流沿いの苔むした岩の上に生ずる。茎は岩の上から這うように伸び、対生する葉の先に小さな白い花をつける。

奄徳沖西



アマミウヲウチ※

岩の上などに生息し、葉がうろちの形に見えることからこの名が付いた。夏に白い花を咲かせる。

奄徳沖西



アマミエビネ※

比較的高い苔むした森の林床に生育する。春には白やピンクなどの花をたくさん咲かせ、森をひととき華やかにする。

奄徳沖西



アマミセイシカ※

森の中の溪流沿いなどに生息する。春には比較的大きな、淡いピンクを帯びた白い花を咲かせる。葉の形が特徴的。「デンダ」はシダの古い呼び名。

奄徳沖西



アマミデンダ※

とても小さなシダ植物で、溪流沿いの苔むした岩場や崖に生息する。葉の幹などに着生するランの一種。垂れ下がった花茎の先に小さな花をたくさんつける。

奄徳沖西



コゴメキノエラン※

湿度の高い苔むした森の中で、樹木の幹などに着生するランの一種。垂れ下がった花茎の先に小さな花をたくさんつける。

奄徳沖西



フジノカンアオイ※

光沢のある比較的大きな葉が特徴。生育環境によって大型の個体が見られ、花の色が異なるなど個体差がある。

奄徳沖西



リュウキュウスズカケ※

日当たりのよい林縁などに生息する多年草。草は地を這うように広がるが、秋には白やピンクの小さな花をつける。

奄徳沖西



ハツシマカンアオイ※

山地の林床などに生息する。葉の長さは7～12cmで、花柄が長く伸び、淡緑色または緑紫色の花を咲かせる。

奄徳沖西



アマミアオネカズラ※

山地林下の樹幹に着生するシダ植物。葉身全体の長さは30cmほどになり、葉質は柔質で両面に短毛が密生している。

奄徳沖西



タニムラカンアオイ※

1987年に発見された石灰岩土壌の林床に生息する多年草。冬から早春にかけて白い小さな花が咲き、花の中央が赤くなる。

奄徳沖西



トクノシマエビネ※

湿潤な森の中に生息する多年草。白に紫褐色や赤褐色の入った落ち着きのある色合いの花を咲かせる。

奄徳沖西



トクノシマデンナンショウ※

森の林床に生息する多年草。鳥足状につく葉と、紫褐色の仏炎苞（ぶつえんほう）という形状をした花が特徴。

奄徳沖西



モダマ

海岸近くの林縁などに生息する大型のつる植物。マメのさやは大さなもので1mを超え、その大きさは世界一といわれる。

奄徳沖西



オナガエビネ※

湿潤な森の林床に生息する地生ラン。夏になると、大きな葉の間から花茎を伸ばし、淡い紫色の花を咲かせる。

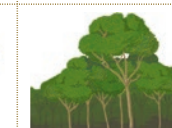
奄徳沖西



ウケユリ※

海岸近くの崖などに着生する多年草。テッポウユリの花に似ているが、赤茶色の花粉が特徴で他種と区別できる。

奄徳沖西



イタジイ

上から見てとブロッコリーのようなところで見ることが出来る。沖縄島北部を代表する広葉樹。

奄徳沖西



イジュ

やんばるを代表する花で、山のいたるところで見ることが出来る。ツバキ科に属する照葉樹で梅雨の時期に白い花を咲かせる。

奄徳沖西



オキナワウラボロギシ

琉球列島の固有種で、葉の裏が白い大きなドンブリになる木として知られ、森の生き物の貴重な食料の時期に白い花を咲かせる。

奄徳沖西



マヤブシキ

マングローブの一種で、泥中から包根といわれる木根を多く出す。9月頃に開花のピークで、夜に花を咲かせる。

奄徳沖西



ヤエヤマヒルギ

8mほどの高木で、タコの足のようにつく広がる根を持つ。満潮になると根っこは沈み、生き物たちの隠れ家となる。

奄徳沖西



デリハノギク

八重山諸島の固有変種で、自生するギクの仲間である。冬から春にかけて白い花が多数咲く。

奄徳沖西

哺乳類



アマミノクロウサギ※

耳や手足が短く、最も原始的な姿を残すウサギの仲間といわれる。夜行性で、巣穴に赤ちゃんと埋めて育てるのが特徴。

奄徳沖西



トクノシマトゲネズミ※

頭胴長約15cm、尾長約10cmの黒褐色のネズミ。主に照葉樹林内に生息し、夜行性でシイなどの実や昆虫類を食べる。

奄徳沖西



オキナワトゲネズミ

全身がトゲ状の毛で覆われており、飛び跳ねながら移動する。国の天然記念物でやんばるの固有種。

奄徳沖西

奄美・琉球
たからもの
図鑑

Amami Ryukyu
Treasure
Illustrations



“繋ぐ島”
徳之島
Tokunoshima Island

“運る島”
奄美大島
Amami-Oshima Island

“育む島”
沖縄島北部
North Part of Okinawa Island

“宿る島”
西表島
Iriomote Island

世界自然遺産登録候補地である、鹿児島県の奄美大島・徳之島、沖縄県の沖縄島北部・西表島は、かつて大陸の東端の一部であり、大陸と共通の動植物が生息していました。しかし沖縄トラフやトカラ海峡・慶良間海峡の深い海峡の形成に伴い、各島は別々の時期に大陸から分断されたことで、大陸では共通の祖先種をもつ動物が絶滅し、奄美大島、徳之島及び沖縄島北部では、生き残った動物たちが独自の進化を遂げてきました。西表島には、氷期の海面低下時にヤマネコが進入すると、台湾や大陸に近縁種が分布する固有種・亜種が多いといわれています。このような歴史があり、今の生態系を確立した各島では、他では見ることの出来ない貴重な動植物が息づいています。



ケナガネズミ

木の上で生活する日本最大の野ネズミで、頭胴長約30cm、尾長約30cmにもなる。しっぽの先から半分の白が目特徴。

奄徳沖西



イリオモテヤマネコ

西表島の固有種で、国指定特別天然記念物に指定されている。西表島にのみ生息し、推定生息数は約100頭といわれている。

奄徳沖西



カグラコウモリ

国内に生息する唯一のカグラコウモリ科で、西表島では一万頭以上の大群を形成することがある。和名の由来は、神楽の面に似ていたため。

奄徳沖西

鳥類



ルリカケス※

森林に生息する朝顔色と赤茶色のコントラストが美しいカラス科の一種。美しい体色に似合う「チー・ギャー」と騒がしい声で鳴く。

奄徳沖西



オオトラツグミ※

日本で最も絶滅の危険性が高い鳥類のひとつ。暮春先の早朝に「キョーローン」という特徴的な美しい声でさえずる。

奄徳沖西



アマミヤマシギ※

全身淡褐色のずんぐりした体型で、尻尾と足が短い。ミミズや昆虫類を食物にし、地面で採食や営巣をする。

奄徳沖西



ヤンバルクイナ

日本唯一の飛べない鳥で、沖縄の固有種。森の中を歩き回り、昆虫類やミミズ類などを食べる。

奄徳沖西



ノグチゲラ

やんばるの森に生息するキツツキの一種。鮮やかな赤いくちばしと黄褐色に紫を足したような模様を持ち、トカゲを掘り、昆虫類や果実を食べる。

奄徳沖西



リュウキュウアカショウビン

森林に生息するカワセミの一種。鮮やかな赤いくちばしと黄褐色に紫を足したような模様を持ち、トカゲや昆虫などの小動物を捕食する。

奄徳沖西



カンムリワシ

翼を広げると90～120cmにもなる大型のワシ。森林や湿地などに暮らす場所を好み、電柱に止まる姿もよく目撃されている。

奄徳沖西

両生類



アマミシカワガエル※

溪流近くに生息し、「ビュー」という高く澄んだ声で鳴く。緑色に金色の斑点模様があり、日本一美しいカエルといわれる。

奄徳沖西



アマミハナサキガエル※

山地の溪流近くに生息し、「ピキピキ」というように鳴く。後ろ足が長く、体色は褐色、睨み褐色など、個体差が大きい。

奄徳沖西



オキナワイシカワガエル

日本で一番美しいカエルといわれる。体色は緑色や黄緑色で、まだら模様。一匹ずつ体の模様が違う。

奄徳沖西



ハナサキガエル

体長約6～8cmで、足が長くジャンプに優れたカエル。森林に生息するが、1～2月には海苔などに集まり集団で産卵する。

奄徳沖西



ナミエガエル

体長約13cmにもなる大きなカエルで、やんばるの地域のみが生息する固有種。4～6月に溪流や湧水のたまり場で産卵する。

奄徳沖西



ホルストガエル

やんばる地域と渡嘉敷島にしか生息していないカエル。オットンガエルによく似ている。吸盤は持たず、後足の小さな黒い斑紋がある。独特の鳴き声も特徴的。

奄徳沖西



ヤエヤマアオガエル

西表島と石垣島の固有種。指に大きな吸盤があり、大層の下部は小さな黒い斑紋がある。独特の鳴き声も特徴的。

奄徳沖西

爬虫類



オビトカゲモドキ※

徳之島だけに生息する固有種で、ヤモリの仲間。胴の長さが6～8cmで、首から背中にかけて4本の桃色の横帯模様がある。

奄徳沖西



リュウキュウヤマガメ

甲羅の大きさが約7～15cmの陸上の森に生息するカメ。頭部に橙色や黄色のまだら模様や筋模様が入る。4～5月にかけて産卵する。

奄徳沖西



クロイワトカゲモドキ

湿度の高い森林や石垣に生息。分類上はヤモリの仲間だが、トカゲとの中間的な特徴があり、原始的な種といわれている。

奄徳沖西



ヤエヤマセマルハコガメ

甲長17cm前後の大型のカメで照葉樹林に生息。頭部、四肢、尾を引っ込めて閉じため、ハコガメの名が付けられた。

奄徳沖西

昆虫



キシノウエトカゲ

宮古島と八重山諸島の固有種。日本最大のトカゲで、全長30～38cmにもなる。国指定の天然記念物。

奄徳沖西



フェリエベニボシカミキリ※

オスはイタジイなどの太い立ち枯れ木に飛来し、メスが来るのを待つ習性がある。梅雨の半ば頃から1カ月程見られる。

奄徳沖西



リュウキュウハグロトンボ※

樹林に開かれた水がきれいな河川や沢に生息する。青い黒い翅と、金属光沢の強い青緑色や光沢のある黄緑色の体を持つ。

奄徳沖西



ヤンバルテナゴコガネ

日本最大の甲虫で、オスの前足は長さ約9cmにもなる。イタジイやオキナワウラボロギシの木のうろの中に生息することがある。

奄徳沖西



コナカハグロトンボ

西表島と石垣島の方に生息する固有種。山頂部の綺麗な溪流周辺に生息し、3月から11月と長い期間見ることが出来る。

奄徳沖西



ヨナグニサン

羽の面積は世界最大で、広げると25cmほどの大きさを持ち、モスラモデルになった。沖縄県の天然記念物。

奄徳沖西

その他



アオバラヨシノボリ

沖縄島北部のみに分布する淡水魚。他のヨシノボリに比べるとまだら模様は少なく、繁殖期のメスはお腹の膨らみで区別することが特徴。

奄徳沖西



ヤエヤマサソリ

森林の中の朽木などに生息する小型のサソリ。毒性はほとんどなく、メスが単独で産卵するサソリとして知られている。

奄徳沖西



ミナミコムツギギ

薄い紫色で丸い体型が特徴のカニ。干潮時の平潟によく現れ、砂の糞分を吸い、団子状に投げ捨てる。前に歩くのも特徴。

奄徳沖西

※【参考文献】
▶環境省 奄美野生生物保護センターHP
▶環境省レッドデータBOOK2014 哺乳類、爬虫類、両生類、昆虫類出版
▶大橋広好 日本の野生植物1 平凡社出版
▶驚おいつく ネイチャーガイド 奄美大島のトンボ 亜種プロジェクト No.1409 自然保護地域における協働管理のための情報交流システムの開発 奄美大島をモデルとして、研究グループ出版